

指 導 係

1 指導関係事業

(1) 学校訪問

指導主事が随時訪問し、校長をはじめ教職員と協議懇談することにより、学校の抱える問題を解明し、指導・助言をした。また、要請により研究会等に出席し、指導・助言を行った。

(2) 研修会

令和7年度は、次の研修会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

ア	校長研修会	1回
イ	副校長研修会	1回
ウ	主幹教諭任用時研修会	1回
エ	主任教諭任用時研修会	1回
オ	福生市教員悉皆研修会	1回
カ	教育研究会研修会（24部会）	11回
キ	中堅教諭等資質向上研修会	8回
ク	初任者研修会	11回
ケ	2年次教諭研修会	3回
コ	3年次教諭研修会	2回
サ	服務事故防止研修会	1回
シ	英語教育研修会（小・中）	3回
ス	特別支援教育コーディネーター連絡会	2回
セ	日本語学級担当教員研修会	2回
ソ	特別支援教室担当教員連絡会	2回
タ	特別支援学級担当研修会	2回
チ	学校マネジメント講座	1回
ツ	スクールカウンセラー研修会	2回

(3) オーケストラ鑑賞教室

市立小・中学校児童・生徒を対象としたオーケストラ鑑賞教室を、市民会館において開催した。

(4) 教育研究奨励、教育課題等研究委託

教育研究を奨励するとともに教育研究を委託し、教職員の使命の自覚を促すとともに、資質の向上を図った。

ア 教育研究奨励校 2校

学 校	研 究 主 題
福生三中 （2年次）	学び合い、教え合い、高め合う集団の育成 ～対話的な学びの充実を目指して～
福生七小 （1年次）	言葉に出会い、読むことが楽しくなる児童の育成 ～語彙の広がりを実感できる指導の工夫を通して～

イ 教育課題等研究校 8校

学 校	研 究 主 題
福生一小	自分の考えをもち、すすんで話し合い、考えを深める児童の育成 ～叙述に基づいて、自分の考えをもたせる指導の工夫～
福生二小	言葉の力をはぐくみ、自分の考えをもち、学び合う子どもの育成 ～個別最適な学びの実現に向けた授業づくりを通して～

福生三小	互いの考えを大事にして認め合える児童の育成 ～学級活動の話合い活動を通して～
福生四小	子どもの笑顔を引き出す魅力的な授業の創造 ～地域と連携した体験活動を通して～
福生五小	学習の基礎・基本を身に付けることにより「分かった」「できた」を積み重ね、自ら解決しようとする児童の育成 ～児童の実態に基づいた授業改善を通して～
福生六小	自ら学びに向かい、確かな学力を身に付けようとする児童の育成 ～授業と家庭学習の往還を通して～
福生一中	生徒が主体的に学習する課題解決型の実践 ～自立した学習者を目指して～
福生二中	発達支持的生徒理解に基づいた指導力の向上 ～「できた・分かった・頑張った」を実感できる学校づくり～

ウ 教育課題等研究（団体）

団 体	研 究 主 題
校 長 会	幼保小の円滑な接続と小中一貫教育の充実を目指して ～中学校区の教育力の向上を図る取組を通して～
副校長会	教員のウェルビーイング向上と働き方改革における副校長の役割

（５） 特別支援教育の推進

特別支援学級の児童・生徒の安全管理及び学習指導等の充実を図るために指導補助員を配置するほか、教員向けの特別支援教育研修会等を開催し、教員の特別支援教育に関する理解を深め、指導力の向上を図った。

（６） 各種指導補助員等配置事業

小・中学校に各種指導補助員等を配置して、児童・生徒の指導補助等を行った。

事 業 名	配置人数	活動時間等
夏季休業中水泳指導補助員	13 人	87 時間
小学校水泳指導補助員	23 人	188 時間
日本語適応支援員	11 人	631 時間
学習指導市民講師	41 人	41 回
特別支援学級等指導補助員	29 人	8,343 時間
スクールアシスタントティーチャー	82 人	23,423 時間

（７） 英語教育指導助手事業

福生市英語教育推進計画に基づき、中学校全校に外国人英語教育指導助手（ＡＬＴ）を配置し、中学校英語科の授業における補助を行った。また、各小学校にも随時ＡＬＴが巡回し、小学校第５・６学年の英語科の授業及び小学校の第１学年から第４学年の外国語活動等における補助を行った。

指導日数：1,030 日

（８） 理数教育推進事業

小・中学校全校に理科支援員を配置し、理科授業の実験、授業等の補助を行った。

配置人数：12 人

活動時間：612 時間

(9) 学校と家庭の連携推進事業

いじめ、不登校、暴力行為など生活指導上の課題に対応するため、小・中学校全校に「家庭と子どもの支援員」及び「スーパーバイザー」を配置した。

ア 家庭と子どもの支援員

配置人数：34 人

活動時間：3,196 時間

イ スーパーバイザー

配置人数：7 人

活動時間：14 時間

(10) 部活動外部指導員配置支援事業

中学校の部活動に外部指導員を配置することで、専門的な技術指導等による部活動の質の向上と教員の負担軽減を行った。

配置人数：25 人

活動回数：1,116 回

(11) 校内別室指導支援員配置事業

不登校及び不登校傾向の児童・生徒が安心して、自己存在感や充実感を感じられる教室以外の居場所に支援員を配置し、児童・生徒一人一人の状況に応じた支援を行った。

配置校

福生第三小学校、福生第四小学校、福生第七小学校（令和6年度から2年間）

配置人数：33 人

活動時間：6,129 時間

(12) 英語教育推進事業

「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」の4技能を測定できる英語四技能検定を中学校第3学年全生徒が公費で受験し、各学校の教員へ英語教育指導顧問の訪問指導を行うことで、生徒の英語力向上と教員の指導力向上を図った。

また、小学校第5学年児童及び中学校第2学年生徒全員を対象に「TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS」（体験型英語学習施設）の体験型プログラムに参加した。

体験型プログラム参加人数：小学校第5学年 333 人

中学校第2学年 329 人

(13) 福生市学力・学習状況調査

一人一人の児童・生徒の学力を継続的に測るため、小学校第2学年から中学校第3学年までの児童・生徒を対象とした学力・学習状況調査を実施した。

(14) 市立学校 I C T 環境整備

市立小・中学校における G I G A 端末（第2期）の更新作業を実施した。更新を実施したことで、処理速度がより速く、操作性がより直感的で、安全性がより高い機器になり、G I G A スクール構想に基づく一人1台端末の一層の活用等、教育における I C T の利活用を推進した。

(15) 幼保小中連携事業

就学前教育と小学校教育との円滑な接続や連携を推進するために、幼保小連携推進委員会を開催しスタートカリキュラムや交流活動の実施を行った。

また、令和6年3月に福生市教育委員会と福生市内幼稚園・認可保育園・認定こども園との連携に関する包括連携協定を結び、持続的な幼保小中の連携を推進している。

(16) 笑顔と学びの体験活動プロジェクト

文化、運動、科学、協働学習など、児童・生徒が自らの感覚や行為により実感、体感する多様な体験機会を通じて、児童・生徒の積極性や協調性、コミュニケーション力、他者理解、興味・関心、感性など、豊かな心の育みにつながるよう、学校における体験活動の充実を図った。

(17) インクルーシブ教育システム体制整備推進事業

令和6年度より、福生第一小学校及び福生第二小学校が東京都より「インクルーシブ教育システム体制整備推進校」として指定を受け、知的障害特別支援学級に在籍する児童への指導、支援の充実を図ることを目的として、専門教具の購入や教員研修、特別支援学校教員との異校種期限付異動を実施した。

(18) デジタルを活用したこれからの学び事業

東京都教育委員会「デジタルを活用したこれからの学び」の推進のため、市内教員一名を推進リーダーとして指名し、指導主事による定期的な訪問指導を通して施策の具体化を行った。2学期には、小・中学校全校のICT教育担当者を対象として、推進リーダーの授業公開を実施し、市内全体への普及・啓発を行った。

(19) 水泳指導外部委託化モデル事業

天候や施設環境に左右されず、質の高い水泳指導を行うため、「水泳指導の外部委託化モデル事業実施計画（令和6年2月策定）」に基づき、令和6年度から令和8年度までの3年間を全校実施に向けたモデル事業実施期間として、市内小・中学校の水泳指導の外部委託化を実施した。令和7年度はモデル事業の2年目として、令和6年度モデル事業の効果検証を踏まえ、福生第四小学校、福生第五小学校、福生第六小学校、福生第七小学校及び福生第三中学校の5校において市内民間プール施設を活用して水泳指導を実施した。

(20) 学びの多様化学校「福生市立牛浜もくせい中学校」

学びの多様化学校「福生市立牛浜もくせい中学校」を令和8年度に開校するための準備を行った。